

< 研究成果の紹介 >

外来雑草キハマスゲの防除

畜産部

1. 成果の内容

キハマスゲ（別名シヨクヨウガヤツリ）は、全国的に飼料畑や水田へ拡散しているカヤツリグサ科の多年生雑草です。在来種のハマスゲと全体的に似ていますが、茎や葉がハマスゲより大きく、花穂は黄色みが強く、塊茎は卵形もしくは球形で非常に多く形成するのが特徴です。ワグネルポット（1/2000a）で生育した1本のキハマスゲは、秋に500個以上の新たな塊茎を形成します。また、種子も多く生産し高い発芽率を示し、種子繁殖しないハマスゲと大きく異なります。

キハマスゲは圃場に侵入すると、短期間に蔓延し一面に拡散し、トウモロコシやソルガム類の初期生育を阻害します。そこで、飼料畑におけるキハマスゲの蔓延を防止するため、最近、開発されたキハマスゲに効果的な除草剤を用いた防除試験成績を紹介します。

飼料用トウモロコシに使用できる茎葉処理剤（ベンタゾン液剤、ニコスルフロロン乳剤）では、キハマスゲの地上部の生育を抑制したり一部を枯死させるものの、塊茎数を減少させることはできません。しかし、現在登録申請中のハロスルフロロンメチルは散布後3週目に地上部をほとんど枯死させ、トウモロコシの収穫時には、散布時における塊茎数の半分に減少させることができました。しかしながら、塊茎を完全に防除するには、継続的な処理やより効果的な散布方法を解明する必要があります。

2. 技術の適用効果と適用範囲

ハロスルフロロンメチルは、外来雑草として全国に蔓延している一年生雑草のイチビにも極めて高い除草効果がありますが、飼料用トウモロコシへの使用は現在登録申請中です。

なお、キハマスゲは九州地方で早期水稻栽培田にも発生し、その防除法は稲刈り後に非選択性除草剤を散布することが効果的と報告されています。

3. 普及利用上の留意点

キハマスゲは畑のみならず湛水条件でも旺盛に生育し、地上部を引き抜いても土中の塊茎から再生します。塊茎は20cmの深さからでも出芽します。このようにキハマスゲの生態は極めて巧妙で、ひとたび耕地に侵入したキハマスゲを防除することは現在では極めて困難です。

今後は水田への拡散のおそれもあります。類似のカヤツリグサ類との識別を確実にし、早期発見と早期防除が拡散防止の基本です。

（飼料作物担当 出口裕二）



ウモロコシ畑に発生したキハマスゲ



キハマスゲの塊茎